

ONE-STOREY HOUSE GOOD SPACE

『ひらや』の楽しみ。 空間の楽しみ。

平屋住宅ってどこか贅沢な気がするのは私だけですか？
すごくシンプルな設計。堂々とした広ーいリビング。
そこには自然とみんなが集まり、会話はなくても家族を感じられる。
シンプルだからこそ人もまた大切な要素で、いろんな表情を見せてくれていました。

一緒に成長していく楽しみが詰まってるからこそ平屋住宅は贅沢に
思えるのかもしれませんね。そんなことを取材しながら思ったのでした。

素敵なお家を建てられた背景にはたくさんの想いがありましたよ。
いいアイデアが浮かんでくるかも!?
お家のヒント、mekkeでメッケてくださいね☆

今回も、紙面では伝えきれなかったたくさんの写真や裏話を
mekkeのHPに載せてるのでこちらも是非チェックしてみてくださいーい☆

素敵で楽しい! プレゼントが当たる!!

アンケートにお答えいただくと抽選で、豪華賞品がもらえちゃうよ!
詳細は後ろのページをご覧くださいね!



mekke.applive.com

暮らしメッケ 検索

IMAGE WORKS™

<http://www.kowakensetsu.jp/>

TEL 0859-22-7271

『こち良さ』って 何だろう?

単純に“ 予算 ”で
叶えられるものではなく…

いわゆる“ 性能 ”だけで
与えられるものでもなく…

そもそも“ 材質 ”によってのみ
贈るものでもなく…

ましてや“ デザイン ”だけによって
昇華するものでもない…

千差万別…
各人各様それぞれの
感性と五感によって
贈るかも知れないコト

建築の…
とりわけ
「住宅」に限って言えば、
『こち良さ』を追及する
旅のようなものだね

永遠に真実が
解き明かせない…
得られそうで
得られそうに無いテーマ

『こち良さ』って 何だろう?…

20
Anniversary



光と風が通る家

» 田村淳建築設計事務所

日当たりが悪くなってしまう湿気に悩まされていた日々から一変、高床式の平屋によって光が差し込み、風の流れる快適な生活へ。空が見えるリビングでは、3世代の家族が団欒するようになりました。



architect / 田村さん

住む人がどういった暮らしをしていくか、どんな時間を大切にしていくかを常に考えています。



owner / 田村さん

孫や友人がたくさん来てくれるから毎日楽しく、充実しています。

高

層マンションや二階建て住宅に囲まれた街かどに、そこだけ凛とした空気を漂わせている田村邸。お住まいになっているのは田村保之さん・美美子さん夫妻。家の設計は息子の田村淳さんです。

以前の住居が老朽化していたことに加え、隣に高層マンションが建つことで日当たりが悪くなってしまう新築することに。子どもたちが結婚や転勤で巣立ち、夫婦水入らずの生活になったこともきっかけ

になりました。

「当時の家は湿気がこもって革ジャンにカビがはえたり、朝から電灯をつけるような生活でした」と語る保之さん。

そんなこともあって要望は「光が入り、湿気のない家」。

それを受けて淳さんが提案したのは、永く愛着を持つて暮らせる木造平屋造りの家。両親の夢を実現するため、湿気がこもりにくい高床式を取り入れた、美しい住宅をデザインしたのです。

ONE-STOREY HOUSE
GOOD SPACE
SPECIAL FEATURE

ARCHITECT

いつまでも健康で明るい生活を送ってほしい。



田村淳建築設計事務所

楽しみや余裕を与えてくれるアイデアを組み込み、永く愛着を持って暮らしていただけるようなデザインを目指している。

<http://juntamura.net>

設計に関しては、もう一つ要望が出されました。それは、先代から受け継いだ以前の家で使っていた庭石、ケヤキなどを生かすこと。

これも見事に実現されました。和室から見える枯山水の箱庭を造って庭石を生かし、ケヤキは和室の床の間に再利用されています。

田村邸には、どの部屋からも眺められる中庭もあります。竹垣の飾り付けはガーデンデザイナーをしている淳さんの奥様、有紀子さんの作品です。

「建物に使用する材料は、使い込むほどに趣きが出る自然素材なるべく使いたいと考えています」と語る淳さん。今後は若夫婦でコラボした仕事に、もっと出会えそうです。

ら、20坪ほどから平屋の設計ができるそうです。気軽に相談するのもおすすめです。

田村邸の中庭に植えられたヤマボウシは、四季折々に色づきながら年輪を重ねています。「どこ」からでも眺められて、春は新緑、秋には紅葉を楽しんでいきます。夜には天窓から星や月を眺めながら、お酒を飲む時間が何ともいえず気持ちいいですね。

居心地のよいリビングには毎週末、お子さんやお孫さんが集まっています。家族でご飯を食べたり、おしゃべりしたり、お孫さんと星空を眺めたり…。それは、ご夫妻の至福の時間です。

両親の健康な日々と幸福を願って建てられた平屋。その思いやりが3世代の絆を結び、団欒の場所を生みしました。

(写真)3.お父さんの趣味は海外旅行やスポーツ。4.ゆったりとした空間でリラックス。5.リビングには光を取り入れ、左右から風が通り抜ける。6.隠岐から持って帰ってきた庭石。7.和室に入るとガラッと変わった印象に。



詳しくは、WEBへアクセス! [mekke.applive.com]

暮らしメッセ 検索



光と風が通り抜ける開放的な空間を演出。

OWNER

部屋の窓からは季節ごとの景色が見えます。

建

建築士の淳さんが設計で大切にしているのは、生活をするのに機能的でありながら、どこか楽しみや余裕を与えてくれるアイデアが組み込まれていること。田村邸では、その考え方がカタチになっていることが分かります。

家の中心に配置したのは、温かみのある木材を全体に用いたリビング。その片面に当たる木の壁は、大きなブラインドとなつて開閉できます。壁一面が窓に変身するので、湿気の心配はありません。

さらに和室・寝室・浴室など、どの部屋にも窓を2カ所に設け、風が動いて流れる工夫がなされています。

「光と風がよく入り、今では梅雨の時期も快適です。逆に冬は加湿器をかけて、湿気を補うくらいなんです」と、嬉しそうなご夫妻。

田村邸では、省エネ対策として冬は蓄熱暖房機を活用し、料金の安い深夜電気をためて昼間に使っています。これによって電気料金は前に比べ、格段に軽減したそうです。

リビングには光を取り入れ



1.各部屋から眺められ、季節感を楽しめる中庭は、ガーデンデザイナーをされている奥様が担当。2.リビングの吹き抜け天窓から優美な光が差し込んでくる。

る天窓もあり、見上げると空や雲を見ることが出来ます。光が差し込み、一日中過ごしやすいため、ご夫妻は自然とここに集って人生の時間を共有されています。

「なにより平屋がいいですね。どこにいてもお互いの気配を感じられるので安心します」

そのおっとりした声から、やさしい人柄が伝わってくる美子さん。一つ屋根の下ならぬ、一つ床の上。そんな平屋の家は快適な生活だけでなく、心に穏やかな安らぎまでもたらしています。

OWNER

家づくりは
みんなで盛まつり事。
り上げれば良いまつりができる。

つくり続ける家

» グラムデザイン一級建築士事務所

大山の麓、のどかな田園風景にとけこんでいる一軒の木造平屋造り。土地がもつ可能性を検証しながら、美しい切妻屋根の家をデザインした木村邸には明るい日差しがあふれていました。

秀

峰大山を背景に四季折々の風景を水面に映す岡成池。この池の近くに、まるで一枚の絵のように佇んでいる平屋。それがグラムデザイン一級建築士事務所の代表、木村智彦さんの自邸です。



(写真) 1. 家族みんなで食べる3時のおやつは自然と顔もほころぶ。2. みんなが集まりやすい空間は家族団らんの中心。



owner/architect/木村さん

家族のために建てた家で妻と子供たちと良い時間を過ごしたい。



owner/木村さん

今後は私も一緒に家を育てていこうと思います。



(写真) 3. キッチンから子供の様子がわかるのでお母さんも安心。4. キッチンの上にはくつろげるスペースもあり、リビングを見下ろせる。5. 窓外に望める大山。四季折々の景色も堪能できる。6. いくつかの案から実現に至った切妻屋根の構造模型。7. 広い平屋空間を元気に走り回る子供達。

(※) モップアップとは実物のものをそっくりに似せた模型のことです。



グラムデザイン
一級建築士事務所

場所と人を根ざし、個別のコンテキスト(文脈)を持つ建築の設計に取り組んでいます。

<http://gramdesign.biz/>

大山の麓に眺望の素晴らしい土地を見つけたことをきっかけに、この住宅の計画は始まりました。友人宅がその近くにあり、以前から家族でよく遊びに行っておられたことから岡成に土地を購入。米子市内にありながら、大山を臨む風景や自然に囲まれた環境も気に入られているそうです。

美しいバランスの切妻屋根を追求するため、軒の高さや深さ、屋根の勾配などは木村さんによって作られた「モップアップ」により導き出されました。木材は杉、桧、檜葉などがふんだんに使用されています。特に構造材、内外装の杉材は鳥取県産材にこだわられ、開放感あふれるフロアには、四角い木箱のようなキッチンが配置されています。「私が家事で動く流れを配慮して設計してくれました」と、奥様の使い勝手も抜群のようです。

住宅の仕事では、安易にプラスチック建材を用いたり、工夫のない既製品の組み合わせで

はなく、大工や各職方の知恵と経験を活かした仕事をしたたいと考える木村さん。自邸だということでも、もうひとつ特別に意識されたことは、自らも手を入れる「つくり続ける家」であるということ。

予算の都合もあり内外装の塗装などは友人の手も借りて自分達で施工。内装壁の合板は、木目を微妙に残すように手を掛けて染色されました。友人たちが手伝ってくれたおかげで、やさしい人の温もりが家全体からあふれ出ているそんな家が完成しました。「部屋が広いので、子どもたちは元気に走り回っています。毎日、家の中

詳しくは、WEBへアクセス! [mekke.applive.com]

暮らしメック 検索

